

「カーボンニュートラルに向けた燃料電池技術」

産総研コンソーシアム名古屋工業技術協会では、下記の要領にて2021年度第1回研究会を開催致します。皆様のご参加をお待ちしております。

<全体概要>

カーボンニュートラルに大きく貢献できる技術として燃料電池技術が大きな注目を集めています。本講演会では、燃料電池車用の燃料電池、定置用燃料電池、固体酸化物形燃料電池、それに高温水蒸気電解セルの最新技術について紹介を行っていただきます。

記

◆日時：2021年11月1日（月）13：30～16：30

◆場所：Web講演会（Microsoft Teamsでご招待、Web版Microsoft Teamsで参加可能。無料アプリ版は下記アドレスより入手可能、インストールしてご参加下さい）
<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/microsoft-teams/download-app>

◆定員：50名

◆参加：無料

◆参加申し込み方法：

下記のサイトへアクセスしていただき、参加登録を行ってください。

<https://forms.office.com/r/7fQy0bmt4Y>

（アクセスができない場合は、下記協会事務局へE-mailでお問い合わせください）

◆申し込み締切日：2021年10月27日（水）

■プログラム

－13：30～14：15

「カーボンニュートラル実現に向けたトヨタの燃料電池開発の取り組み」

折橋 信行（トヨタ自動車株式会社 トヨタZEVファクトリー

商用ZEV製品開発部 部長）

【概要】燃料電池開発に関するトヨタ自動車の取組みを説明する。具体的には、燃料電池車MIRAIのFCシステムの紹介や、それをを用いた他のアプリケーションへの展開について説明する。

－14：15～14：45

「パナソニックにおける定置用燃料電池の開発および普及に向けた取り組み」

新谷 晴彦（パナソニック株式会社 テクノロジー本部

マテリアル応用技術センター 主幹研究員）

【概要】パナソニックは2009年に世界で初めて家庭用燃料電池エネファームを実用化し、その普及に努めてきた。さらに近年ではカーボンニュートラル社会を見据え、エネファームの技術を活用した純水素燃料電池の開発・普及に取り組んでいる。本講演では、これらパナソニックにおける定置用燃料電池の開発および普及に向けた取り組みを紹介する。

－14：45～15：00 一休 憩一

－15：00～15：45

「脱炭素社会に向けた固体酸化物形燃料電池および高温水蒸気電解セルの開発状況」

水谷 安伸（産総研 極限機能材料研究部門 固体イオニクス材料グループ 招聘研究員）

【概要】固体酸化物形燃料電池は、家庭用燃料電池、業務産業用燃料電池として実用化、市場導入されているが、脱炭素社会に向けてはさらなる高効率化や高温水蒸気電解セルとしての普及が期待されている。本発表では最新の国内外の研究開発動向を紹介する。

－15：45～16：15

「水素社会に貢献する高性能電気化学セラミックデバイスの開発」

島田 寛之（産総研 極限機能材料研究部門 固体イオニクス材料グループ 主任研究員）

【概要】産総研中部センターにおける将来の水素社会に向けた取り組みとして、究極の発電効率（>70%）を実現するためのプロトン伝導セラミック燃料電池の開発や、水素の大量合成を目指した高温水蒸気電解技術などについて紹介する。

－16:15～ チャットによる討論 （16:30 終了予定）

《お問合せ》

産総研コンソーシアム名古屋工業技術協会 事務局

E-mail: M-nagoya-kyoukai-ml@aist.go.jp